

組合士さん

こんにちは

訪ねた組合士

全国中小企業組合士協会連合会会長  
富士宮鉄工団地協同組合専務理事

齊藤 行正さん

新会長インタビュー

## プライドある組合士制度づくりを目指して

去る6月8日、東京・港区のホテルインターコンチネンタル東京ベイで全国中小企業組合士協会連合会の平成19年通常総会が開催され、①魅力ある組合士制度に向けた取り組みの強化（組合士活性化特別委員会を組合士活路実現化行動委員会に改組）、②協会未設置県の設立促進、

③組合士制度普及のため組合代表者向けパンフレットの作成等を重点活動として決定した。また、役員改選が行われ、新会長に5年間に渡り組合士活性化特別委員会の委員長を務めた、富士宮鉄工団地協同組合専務理事の齊藤行正氏が新会長に就任した。



齊藤新会長

そこで、齊藤新会長にこれまでの組合専従職員、組合士としての経験・活動も踏まえつつ、新会長としての抱負、ビジョンを伺った。

### 組合事務局は「万能 たれ

齊藤会長は30年以上に渡り、富士宮鉄工団地協同組合の専従職員・役員として組合運営に当たられている。昭和38年設立の同組合に44年から奉職され、ほぼ組合の歴史とともにあると言っても差し支えない。齊藤会長はその経験を踏まえて「組合事務局は万能たれ」とする。

「組合事務局に入ったのは33歳の時です。まだまだ組合も若く、就業規則作りから税務申告までありとあらゆる業務に取り組みました。会計／経理から労務管理まで、いわば税理士、社会保険労務士、弁護士といった役割も求められる。「何でも屋」です。そういう意味で組合事務局はオールマイティでなければならぬ。組合専従の職員として専務理事としてそれが一つの信念です」。

しかし、同時に組合事務局は「縁の下 の力持ち」として、組合員をサポートし、指導する立場にもある。「それだけに、事務局職員は常に勉強しなければいけないし、して欲しいと思っている」とも語る。

### プライドを持って仕事のできる組合士

また、近年は自らの存在意義を模索する組合も少なくない。そういう状況に対して「確かに、もはや組合は不要という考え方もあるでしょう。しかし、ここ3、4年、私はやはり組合は必要だと考えるようになっていきます」と、改めて「組合の存在意義」を指摘する。「組合がなければ入手できない情報もある。また、組合が存在することで組合員の拠り所になることもできる。組合は一致団結できる柱が1つか2つあれば十分なのです」とし、「組合員を引っ張っていくのは組合、その組合を引っ張っていくのは組合事務局、その組合事務局を引っ張るのは組合士だと思っています」と組合士

の存在、役割の重要性を指摘する。「繰り返しになりますが、何でもできると言う意味での万能。それには勉強しかない。組合士資格はそのきっかけ、具体的な手段としていい資格です。今年の組合制度改正、そして来年の組合税制改正で組合運営は大きく動いています。そういう動きに機敏に対応できるのは、勉強を重ねる組合士です」。自ら組合草創期にオールマイティな経験を積み、組合士第1期生でもある齊藤会長は組合士資格をそのように評価した上で、「だからこそ、組合士にはプライドを持って仕事をして欲しいし、常に勉強を続けて欲しい。資格の取りっぱなしではダメです」と強く期待を寄せている。

### 組合士をめぐる環境整備へ向けて尽力

最後に、新会長の立場からとして、齊藤会長は次のような抱負を語られた。「まず、組合士への関心を掘り起こし底辺を拡大したい。それには組合士の資質の向上も必要です。「自ら勉強」のムード作りもしたい。それには、組合士協会の存在も必要ですから、協会未設置県には積極的に働きかけていきたい」そこで、全国中央会から渡された200枚の「全国中小企業組合士協会連合会会長」の名刺を使い切るつもりで得意のフットワークを活かしたいとのこと。「2年の任期に1つでも協会が増えたらいいですね」と語る笑顔が印象的だった。